

1 競技を始める前に

この「“三郷のいいところ”カルタ」大会（以下、「カルタ大会」と称する）は、勝負にこだわることなく、三郷の美しい自然・文化や産業等を心にえがきながら、ルールを守って、礼儀正しく、仲良く学ぶように指導することが大切である。

2 競技の仕方

(1) 競技の種類

この「カルタ大会」は、次の種目で競技が行われる。

ア 団体競技…4人1組でチームを編成する。

＊ 競技は、3人1組で対戦する。

＊ 交代は、原則として試合中はできない。ただし、試合途中において出場選手が健康上試合続行不可能と判断したときは、交代することができる。

（いずれも男女は問わない）

イ 個人競技…1人对1人で対戦する。

＊ 個人競技の場合は、交代が認められていないので、試合途中で試合続行不可能と判断したときは、棄権として相手の選手を23点对23点の『み』札勝ちとする。

(2) 競技に必要な係

＊進行係

進行係は、「カルタ大会」の運営をよく把握して、進行を敏速にするよう努める。人員の配置は、主になる者1人と副として4人必要である。

＊読み手

読み手は、競技進行に最も重要な役割であり、はっきりとした言葉と声で読み上げる。

＊審判員

審判員は、各対戦試合に1人配置し、担当競技の判定を責任をもって処理し、試合終了後、その結果を記録表に記入し、記録係に提出する。

また、競技上の問題点やトラブルが発生したとき、その他試合の進行を妨げるような問題が発生したときには、旗を上げ、試合をストップさせ、進行係に告げる。なお、審判員は、試合を公平に判定し、自信を持って判断をくださうように努める。

*記 録 係

記録係は、審判員から受け取った記録の確認をし、試合の結果を敏速に把握して、正しく記録する。

※以上の係の他に、大会運営上の係分担は、大会の状況により増減があっても支障はない。

3 競技会場の準備

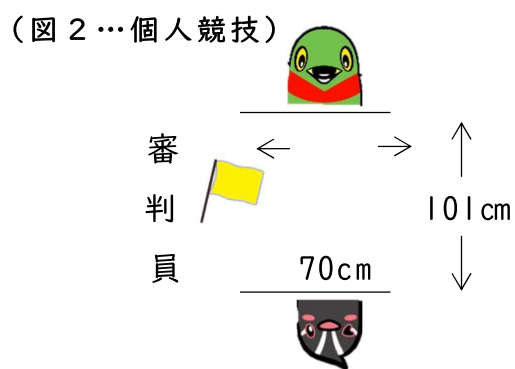
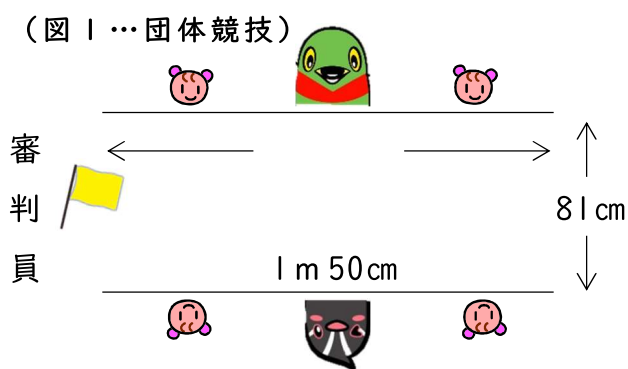
競技会場は、出来るだけゆとりを持って設定する。

*団体競技の場合（図1）

3人が向かい合って一列に並ぶ。この陣の幅は1.5メートル以内で、3人が適当な間をおいてラインの手前に、ひざを20cm程度開いて座る。相手チームとの間は、ひざ頭から81cmの幅をとる。前傾姿勢は45度以上傾けてはいけない。手をひざの上に置くのはいいが、ひざの上にひじを置いてはいけない。コートの中ん中に3cmの中央線を引いて、それを挟んでカルタを並べる。

*個人競技の場合（図2）

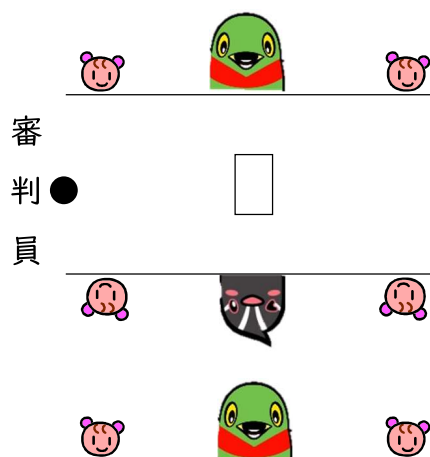
1人で向かい合って座り、陣の幅は70cm以内とする。相手チームとの間は、ひざ頭から1m1cmの幅とし、コートの中ん中に3cmの中央線を引く。



4 競技の進行方法

(1) 試合をはじめる前に

対戦チームを所定の位置に座らせ、進行係の合図でお互いに礼をさせる。



(2) 取り札の並べ方

ア 進行係の合図で、担当審判員は取り札を対戦者の真ん中に置く。
イ 団体戦は真ん中の人、個人戦はお互いに進行係の合図で「ジャンケン」をさせる。

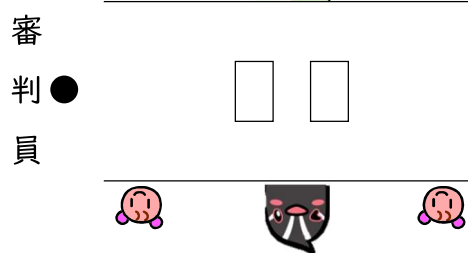
ウ 勝った人が真ん中の取り札をよく切り、真ん中に23枚ずつに分けて、少し離して置く。

エ 負けた人は真ん中に置いてある取り札を、どちらでも好きな方を取り、残った方の札を勝った人が後から取る。

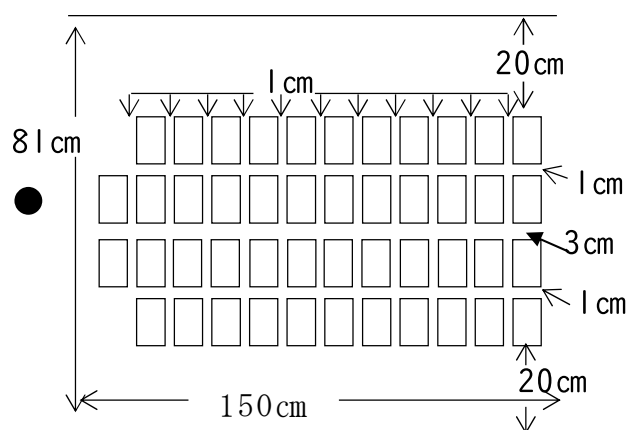
オ 進行係の合図で、真ん中の人自分の陣内の審判側上段よりすみやかに並べる。他の2人は、記憶の体勢に入る。

(団体は2段、個人は3段)

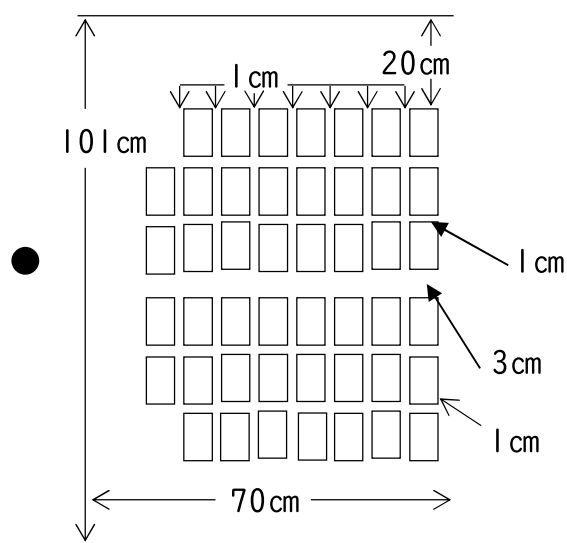
札と札の間隔は、左右・上下とも1cm程度離す。相手チームとの間隔は3cm程度離す。



(団体競技)



(個人競技)



(3) 試合の方法

- ア 主進行係の合図で「取り札」を並べる。記憶時間は、並べ始めから5分以内とする。
- イ 読み札は必ず2回繰り返し読む。
- ウ 読み手は、始めに「から札」として『**み**札』（三郷市は 3つの村から生まれたよ）を2回読む。これが予告となり、次に読まれる札から取りはじめる。試合が途中で停止し、再開するとき、読み手は「続けます」とことわってから次の札を読む。
- エ 取り札が最後の2枚になったとき、どちらの札が残っても、中央に横30cm程度離して並べる。ただし、団体戦の場合は、3人中、真ん中の1人が残って、2人は後に下がり、2枚の札を争う。このとき、読み手は、試合開始のときと同じく「から札」を2回読み、それが予告となり、次に読まれる札が取り札となる。
- オ 最後の2枚のうち、1枚を取った方が、残りの札を取る。ただし、最後の2枚でお手つきをしたときは、2枚は相手の札になり、さらにお手つきとして手持ちの1枚を渡す。最後の2枚のときは「おてつき」してすぐに取り直しをすることはできない。また、同時「お手つき」のときは、審判預かりとする。
- カ 札を取るときは、押さえても、はじいても、押しても、引いてもよいが、故意にはじいたり飛ばしてはいけない。読まれた札以外の札に手が触れたときは、「お手つき」となる。ただし、「から札」を読んだときに札に触っても、「お手つき」とはしない。
- キ 取り札に早く手が触れた方が勝ちとして札を取ることができる。

(4) 採点のとり方

- ア 取り札は、1枚を1点として数える。ただし、団体戦の場合には、次のような「やく札」がある。

◎ シンボル札

- ㊦ … さつきの花 初夏を彩る 三郷の花
- ㊧ … 市の木 しいの木 三郷の木
- ㊨ … マスコット かいちゃんつぶちゃん かわいいな

◎ イベント札

- ㊦ … 打ちあがる 夜空に花さく サマーフェス
- ㊧ … くつひもを きゅっと結んで シティマラソン
- ㊨ … リズムのり misato Style 舌鼓

イ 「やく札」 3 枚がそろったときには、5 点加点する。ただし、3 枚そろわない場合には、普通の札と同じで 1 枚 1 点として数える。

ウ 団体戦・個人戦とも、同点の場合には「㊦」の札を持っている方のチームが勝ちとなる。

エ 得点の数え方は、試合終了後、取った札の枚数を確認し、記録表に記入する。次に「㊦札」や「やく札」があるか確認し、記録表に記入する。この総合得点を計算する。

(例) 団体戦の場合、A チームが取り札を 21 枚取ったとする。そのなかに「やく札」のシンボル札 3 枚がそろっていた場合、そのときの得点は、 $21 \text{ 点} + 5 \text{ 点} = 26 \text{ 点}$ となる。

相手の B チームは、 $46 \text{ 枚} - 21 \text{ 枚} = 25 \text{ 枚}$ となり、「やく札」がなければ得点は 25 点だけなので、この試合は A チームの勝ちとなる。

オ 相手チームが棄権のときは 23 点对 23 点とし、『㊦』札勝ちとする。

5 審判員の役割

(I) 審判員の心得

審判員は、常に公平に判断をくだすように心がける。万一、判断に苦しんだ場合には、すみやかに旗を上げ、進行係と密に連絡をし、試合の進行を考慮しつつ敏速に問題の解決にあたる。

試合上の注意事項

- ア 試合中、始めに並べた札の位置を変えてはいけない。
- イ 試合中に取り札が動いた場合、すみやかにもとの位置にもどす。
- ウ 札を取るときは、両手を使ったり、札にかぶさったりしてはいけない。
- エ 札が読まれるまでは、手をひざの上から離してはいけない。また、ラインよりひざとひじを出してはならない。
- オ 選手のだれかが、読まれた札以外の札に手を触れたら「お手つき」となる。「お手つき」をしたチームは、自分たちが取った札の中から１枚を相手チームに渡す。
ただし、両方のチームが同時に「お手つき」をしたとき、または、取り札のないときは、渡す必要はない。
- カ 味方チームの２～３人が同時に「お手つき」をしても、相手チームに渡す札は１枚だけでよい。
- キ 取り札に両チームの人の手が重なったときは、重なった手の下の手のものが取れる。
- ク 取り札に両チームの人の手が同時に触れた場合は、自分の陣内のものが札を取れる。ただし、団体戦のときに、その札が「やく札」の場合は、審判員があずかる。
- ケ 予選ブロックの代表選出は、①勝ち数、②得点数、③対戦時の勝者の順とし、それでも決まらないときは抽選とする。（団体戦の場合は、代表３人で抽選し２勝で勝ちとする。）
- コ 試合開始前に、各選手がゼッケンを背中に着用していることを確認する。

「“三郷のいいところ”カルタ」質疑応答集

質 問	解 答
1 「お手つき」の処理について	
(1) 「から札」を「お手つき」した場合はどうするのですか。	「から札」は予告を意味するために読まれる札ですから、「お手つき」とはしません。
(2) 試合の進行中「お手つき」をした時にまだ1枚も取っていない場合は、相手に渡す札は「借り」となるのですか。	取り札がない場合は、相手に渡す必要はありませんので「借り」となることもありません。ただし、団体戦の場合、3人のうち1人でも取り札を持っている時には、相手チームに1枚渡します。
(3) 味方チームの2・3人が同時に「お手つき」をした場合、相手チームに渡す札は何枚ですか。	味方チームの2・3人が同時に「お手つき」をした場合でも、相手チームに渡す札は1枚だけです。
(4) 両方のチームが同時に「お手つき」をした場合はどうするのですか。	両方のチームが同時に「お手つき」をした場合、両方がそれぞれ相手チームに1枚渡すこととなるため、やり取りはしません。
2 「やく札」の処理について	
(1) 「やく札」はどの札ですか。また、どのような時に使われるのですか。	「やく札」とは次の6枚をいいます。 シンボル札 … ㊦・㊧・㊨ 3 人 札 … ㊩・㊪・㊫ } この6枚 団体戦の時だけ適用します。

(2) 「やく札」が読まれた時両方のチームが同時に手を触れた場合はどうするのですか。	「やく札」が読まれた時両方のチームが同時に手を触れた場合は、その札は、審判員が預かります。 ただし、手が重なった場合は、札に直接手が触れている方（重なった手の下の方）のチームのものとなります。
3 「同時」の処理について	
(1) 読まれた札に双方の手が同時に触れた場合はどうするのですか。	双方が同時に札に触れた場合、団体戦の「やく札」以外は自分の陣内のものが取ることができます。 なお、「㊦札」は「やく札」ではありません。
4 記録の取り方について	
(1) 総当たり戦を行った場合に集計で同勝数・同得点が出た時はどうするのですか。 (2) 記録用紙の記入方法はどのようにするのですか。	総当たり戦で同勝数・同得点が出た場合、双方の選手代表1人ずつによる抽選とします。 ◆ 試合前の確認事項 ① 種目（団体戦・個人戦）を確認し、該当する方に○印を付けます。 ② 総当たり戦の場合はブロックの記号を記入します。 ③ 対戦チーム名（市町村名と複数の出場チームについてはA B C D）をはっきり記入し、対戦番号も記入します。 ④ 担当審判員は、記録者氏名と所属地区名を記入します。

◆ 試合終了後の確認事項

- ① 試合が終わったら、双方が取った札の枚数を確認します。
- ② 団体戦・個人戦とも、同点の場合には取った札の中に「㊟札」があるかを確認し、持っている方の「㊟札」欄に○印を付けます。
- ③ 団体戦の場合、「シンボル札」あるいは「3人札」がそろっていた時は、「やく札」欄に○印を付けます。「やく札」は必ず「シンボル札（㊟・㊨・㊩）」あるいは「イベント札（㊪・㊫・㊬）」が3枚ともそろっていません。3枚のうち1枚でも欠けている時は、記録する必要はありません。
- ④ 団体戦の場合は、「審判預りの枚数」欄を確認します。この欄は最高でも「6」（やく札の数）という数字であり、それ以上はあり得ないので、特に注意してください。
- ⑤ 「総合得点」欄は、取った枚数1枚につき1点と計算します。団体戦の場合は、「やく札」3枚で5点を加算します。なお、審判員預りがある場合は、その数はどちらのチームの得点にも加算されないで両方のチームの総得点が46・51・56点にならないこともあります。
- ⑥ 同点の場合は、「から札」の「㊟札」を持っている方が勝者となります。

コート		試合	第	試合	審判氏名	(子ども会)		
チーム名	取った枚数 (枚)	やく札 (5 点)			合計	み札 (○)	判定 (○×)	サイン
		シンボル札 ㊦・㊧・㊨	イベント札 ㊩・㊪・㊫					
	①	⑤ 点			⑥ 点	⑦ 点		
	②	⑧ 点			⑨ 点	⑩ 点		
審判預かり札 (枚)	③	備考 < 個人の場合 > < 団体の場合 > ⑦ = ① ⑦ = ① + ⑤ + ⑥ ⑩ = ② ⑩ = ② + ⑧ + ⑨						
枚数合計 (4 6 枚)	④							

※ 記録方法

コート … 対戦コート番号を記入する。

対戦チーム … チーム名を記入する。

上段は審判席からみて右チーム、下段は左チーム

審判氏名 … 審判の氏名・所属地区を記入する。

① 「取った枚数」 … チームごとに取った、やく札を合わせた合計枚数を記入する。

審判預かりの札がある場合は記入する。(最大6枚)

② 「枚数合計」 … ①の枚数の合計が「46枚」になるか確認し、記入する。

③ 「役札」 … 3枚がそろったとき、5点加点する。※ 団体戦のときのみ

④ 「合計」 … ①と④の合計点数を記入する。

⑤ 「み札」 … ㊦札を持っているチームに「○」を記入する。

※「×」は記入しなくていい。

⑥ 「判定」 … 勝ったチームに「○」負けたチームに「×」を記入する。

同点の場合には「㊦札」を持っているチームが勝ちとなる。

⑦ 「サイン」 … ①～⑥まで全て書き終えたら、各チーム(団体戦の場合はリーダー)に内容を確認してもらい、サインをもらう。